

ターボエンジン付きエイジングマネー（ageing money）

時間が経つと価値が減るお金

バブルの頃、郵便貯金の利率が8%だった時期があります。利率が8%ということは、10年近く預けていれば、それだけで2倍になってお金が返ってくるという凄い話です。今は、超低金利時代ですから、銀行に預金してもほとんど利子はつきませんが、それでも、時間が経つほど利子がついてお金は増えていきます。

これとは逆に、エイジングマネーは、時間が経つほど価値が目減りしていきます。1930年頃、ヨーロッパのある町で価値が目減りしていく地域通貨を流通させたことがあります。そのお金（お札）には消費期限が書かれていて、期限を過ぎると、印紙を買ってそれをお札に貼り付けないと使えない仕組みになっていたそうです。つまり、使う人にすれば、印紙代分お金の価値が減るわけです。こんな嫌なお金は、誰も長く持っていたいとは思えませんから、どんどん消費が進み、この町の経済は驚くほど活性化したそうです。

石けんを売って野良ネコの避妊去勢手術のお金を稼ぐ

子飼商店街の野良ネコ問題に関わっていたら、なんとなく流れて、自分で野良猫を捕まえて避妊去勢手術に連れて行くことになってしまいました。（捕獲された猫は暴れるらしい！）

しかし、手術にはお金がかかります。地域に何十匹もいる野良猫の手術代を全部ポケットマネーで賄うことはできません。そこで、廃油石けんを製造販売し、稼ぐことにしました。商店街の飲食店や惣菜店、あるいは近隣住民から、原料となる食用油を回収します。石けんづくりは、大学生などに手伝ってもらいます。ネコを捕獲したり、避妊去勢手術に連れて行くことは私たちが行い、商店主などは、廃油を提供することで間接的に野良ネコ問題に関わります。

利益を元手に地域通貨を発行する

石けんの売上が1万円で、原材料費が2千円だとすると8千円の利益が出ます。この8千円の半分（4千円）を野良ネコの手術費用に、残り（4千円）をプールしておいて、それと同等額の地域通貨を発行できないかと考えています。

例えば、地域通貨の単位を「ノラ」とすると、4千ノラを市場に流通させます。具体的には廃油の提供者や石けん作りを手伝ってくれた人に謝礼として渡します。地域通貨は、1ノラ＝1円で、子飼商店街でのみ使うことができます。例えば、寿司屋で500円の買物をしたら、500ノラを支払います。250円＋250ノラでも構いません。寿司屋は、受け取った地域通貨を事務局に持ち込み、そこで1ノラ＝1円で現金に換金します。だから、寿司屋に実質的な損はありません。プールした金額（円）以上の地域通貨が流通することはありませんから、破たんすることはありません。

この地域通貨も消費期限付きです。発効日から1ヶ月以上経過したお札は、裏に、指定のシールを貼り付けないと使うことができない仕組みにします。そのシールは、廃油せっけんを現金で買うことによるのみ手に入れることができます。そうして石けんが売れ、元手が増えれば、さらに多くの地域通貨を発行できます。・・・エイジングマネーにターボエンジンをつけてみました。・・・机上では成立するのですが！？ とにかく苛性ソーダを買いに行こう！